

「院内がん登録」研究班

津熊 秀明

大阪府立成人病センター調査部

「院内がん登録」研究班は、がん克服戦略研究事業の分野4「がん予防に関する研究（分野長：国立がんセンター垣添忠生院長）」の1公募研究として組織されました。研究班第I期（1994-96年）の課題名がん予防活動の評価に関する研究—がん登録システムの基盤の構築—は、第II期（1997年）から院内がん登録の標準化とがん予防面での活用に関する研究と変わりました。一貫して、①院内がん登録の整備と標準方式の確立、②登録資料によるがん診療の評価と予防面での資料活用方式の開拓とに取組んでいます。特に第II期からは、院内登録のがん予防面での有用性を明らかにするための研究分野に、重点を移しています。

班を構成する4名の分担研究者とその課題は次の通りです。岡本直幸（神奈川がんセ）：全がん協施設における院内がん登録の標準化と活用に関する研究、味木和喜子（大阪成人病セ）：院内がん登録のシステム化と薬剤情報の活用に関する研究、井上真奈美（愛知がんセ）：病院疫学情報データベースの構築と活用に関する研究、村上良介（大阪がん予防検診セ）：前がん性病変の登録と発がん修飾要因の評価に関する研究。他に数名の協力研究者の参加を得ています。

本研究班のこれまでの研究成果は以下のようです。

1) 院内登録の標準化と推進のためのソフト・教材開発：第I期では、院内がん登録のシステムモデルを確立、さらにがん医療の評価方式を提案しました。第II期に入って、院内登録コア情報入力の為の支援ソフトを実地に運用、改良し、インターネットでも提供できるようにしました。

2) 多重がんのリスク評価と要因分析：①胃がんに対する補助免疫化学療法と2次がんリスクとの関連を分析しました。全体では関連性が示されませんでした。一部に高いハザード比を示す薬剤があり、今後の動向に注意する必要があることを示唆していました。②喉頭がん患者において、治療後の禁煙が、予後の改善と2次がんリスクの低減につながることを示しました。③乳がん患者に対するタモキシフェン投与が、子宮体がんのリスクを高める可能性が欧米で報告されていますが、私達の研究ではこれを支持する成績は得られず、一方、化学療法による非ホジキンリンパ腫の有意なリスク上昇が観察されました。

3) 発がん高危険群の登録とリスク評価：①色素内視鏡検査・生検を受けた健常・良性胃疾患患者のコホート内症例対照研究で、ヘリコバクタ・ピロリ感染者で、同じ

萎縮、腸上皮化生を有する非感染者に比べ、胃がんリスクが有意に高い結果を得ました。②胆石症患者で胆道がん罹患リスクが有意に高く、50歳以上の1.12%が3年以内に胆道がん罹患することを示しました。

本年度は、以下の研究課題に重点的に取り組んでいます。

- 1) 院内がん登録の整備・標準方式の確立
 - ① 地域がん登録全国協議会、日本診療録管理士協会等の協力を得ながら、院内がん登録のシステムモデルの普及をはかり、院内登録と地域がん登録及び臓器別がん登録との連携を強化する。
 - ② 全がん協施設でがん予防研究の推進に主眼をおいた院内登録のモデルを構築する。その為の基礎研究として、a) 薬剤情報のデータベース化を行い、がん予防研究への展開をはかる。b) 患者のパーソナリティ関連情報の集積を進め、これとがん患者の予後、QOLとの関連を分析する。c) 疫学情報データベースを構築し、その院内がん登録との連携を通じ、がん予防研究を推進する。
- 2) 院内登録資料を用いたがん予防研究—多重がんのリスク評価、がん自然史研究
- ③ 多重がんのリスク要因を、原発部位、治療法、生活習慣の面から総合的に分析することとし、胃がん及び乳がんの補助療法が2次がんの罹患に及ぼす影響を、使用薬剤との関連を含め、引き続き分析する。
- ④ 院内登録資料を丹念に点検すれば、がんと診断され、病理学的にがんの確証が得られながら、何らかの理由で手術を拒否したり、根治的治療を受けなかった例を把握できる。本年度はこうした早期胃がん例について追跡調査を行うことにより、早期胃がんの自然史を分析する。また、早期胃がんについてはレーザー治療の効果を評価する。
- 3) 前がん性病変の登録と追跡
 - ⑤ 多施設共同調査を通じて集積したデータに基づき、C型慢性肝炎に対するインターフェロン治療が肝がん予防に寄与しているか否かを評価する。
 - ⑥ 代表的な難治がんである膵がんの高危険因子と考えられる膵管拡張・膵嚢胞、耐糖能低下（糖尿病等）の意義を明らかにし、発がんリスクを定量するため、これら患者を登録し、追跡調査を実施する。

院内登録の整備・拡充が、各施設のがん医療の向上に、また、がん予防・リスク評価に関する（協同）研究の基盤整備に、さらには地域がん登録の精度向上に大きく貢献するものと確信し、このような研究を行っています。